

# 長野市

# 教育センター便り

## 第223号

令和7年12月5日

長野市教育センター  
長野市大字鶴賀550番地2  
TEL 026-226-7486  
FAX 026-264-7570  
責任者 佐藤 文博

広徳中学校 俳句



セーターの袖口に風 冬を知る	油蟬	早く起きると 父の声
佐藤 夢珠 (三年一組)	吉田 光希 (三年二組)	田中 冷 (三年三組)
向日葵や共にのびるぞ 温度計	夏近し 自信に光る 背番号	矢島 紗楠 (三年四組)
柳澤詩奈野 (三年五組)	何もない部屋で聞こえる 蟬時雨	

## 『研修』はいただいた権利

長野市校長会長 小林 克浩  
(三陽中学校)



令和になって7年、コロナ禍を経て学校教育は大きな曲がり角に差し掛かっています。今まで当たり前だった、学校の常識が崩れ、「働き方改革」の旗のもと、行事・日課・校則・部活動やP T A活動に至るまで、あらゆるところで廃止・縮減・改革の動きが加速しています。我々教員にとって確かに働きやすくなることはありがたいことですが、本当にこれで良いのだろうか?一抹の不安が拭えません。今後はどんな教育を目指すのか?そして、自分はその波にきちんと乗れているのか?不安を感じている教員は、私だけではないと思います。そんな不安を払拭するためにはどうしたらよいのか?ポイントは「教員として学び続けること」だと思うのです。

令和7年度は「教育課程研究協議会をどうするか?」をみんなで考える年がありました。様々な機会でいろいろな人と語り合う中でうれしかったのは、大変多くの先生が「授業を通しての研究や研修は大切だ」と考えていることでした。今後どんな形に変わっていくのかはわかりませんが、この気持ちを忘れずに持ち続けてほしいと願うばかりです。

昭和のバブル景気が終わりを迎えようとしていた頃、私は大学を何とか卒業して、中信地区の中学校で技術科の教員としてのスタートを切りました。4月1日、初出

勤の緊張感は今でも憶えています。初対面の先生方から「教育課程、がんばってね」と声をかけられる度に「はいっ!がんばります!」何のことやら意味も分からず、答えていました。自分が研究授業をすると分かって驚いたのは一ヶ月後のことです。教材研究に指導案の作成と困難を極めましたが、一緒に考えてくださる先輩の先生、アドバイスをくださる同教科の先生方には感謝の言葉しかありません。何も知らなかった自分にとって、授業づくりの基本を学んだ貴重な時間であったと思います。

この度「教育センター便り」の執筆依頼をいただいて、改めて振り返ってみると、センターでは研修や教育研究委員会の活動を通して、たくさんのこと学ばせていただきました。新たなひと・もの・ことにも出会わせていただきました。どれだけ教員としての力量がついたかはわかりませんが、「学ぶことで自分も少しづつ成長している」という自信を貰い、いつも後押ししてもらっていたように感じています。

「教員は自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」(教育基本法第9条)

教員にとって今後必要になる研修は、文部科学省や中央教育審議会の答申に基づき、教育現場の変化に対応するためにより高度で柔軟な内容へと進化しています。研修は確かに「法的に定められた教員の義務」ですが、決して悲観的に捉える必要はありません。むしろ「研修は教員に与えられた権利」と捉え、教育センターをはじめとする研修の場を積極的に活用し、子どもたちの成長のために、自ら学び続ける教員でありたいと思うのです。

## 研修講座（理科教育センター）

### ～興味や疑問を生かす理科授業づくり～

今年度から、中学校の先生方対象の研修講座を新設し、初任の先生方も参加しやすい日程としました。

#### 5月13日 中学校の学習にかかわる講座

	講座名	内 容
1	<作って、触って、確かめる地学教材> 地震波の伝わり方や震源の分布を観察する自作教材、デジタル望遠鏡、プラネタリウムなどを体験していただきました。	
2	<「生物の数量的な関係」を体験的に学ぶ> 食物連鎖について、具体的なモデル実験を通して体験的に学びました。	
3	<いろいろな電池について考えてみよう> 33円電池、ボルタ電池、ダニエル電池など実際に作り電池の仕組みを学びました。	

#### 《参加者の感想》

活動を通すことで、新たな疑問や発見があることを改めて感じた。〈抜粋〉

#### 5月16日 小学校中学年の学習にかかわる講座

	講座名	内 容
1	<豆電球と磁石の学習活動> 豆電球をつける実験や磁石の性質を調べる実験の教材化を具体的に演習しました。	
2	<生物分野教材づくり> 池の水中生物を顕微鏡で観察するための方法や留意点を具体的に学び、観察しました。	
3	<音の性質とおもちゃ作り> 音の学習を楽しみながら行う方法や留意点を学び、おもちゃ作りをしました。	

#### 《参加者の感想》

理科が苦手だった私が、子供と同じ感覚で興味深く取り組むことができました。「すごい！」「どうして？」という感覚を大切にし、遊びながら学習につなげられたらと思いました。理科が好きになる研修でした。

#### 5月20日 小学校高学年の学習にかかわる講座

	講座名	内 容
1	<月の観察をしよう>（プラネタリウム利用） 学年に応じた月の観察のポイントや季節の星座などについて体験しました。	
2	<「生物の数量的な関係」を体験的に学ぶ> 食物連鎖について、具体的なモデル実験を通して体験的に学びました。	
3	<検流計の使い方をマスターしよう> 電流に関する学習の中で、検流計を使う意味や粒子概念の導入について実際に検流計などを使ったりモデル実験したりして学びました。	

#### 《参加者の感想》

子どもがどこで困りやすいか、どう伝えたら理解しやすいかを考えることができた。自分の引き出しを増やしていく、子供にとって分かる楽しい理科の授業をつくっていきたい。〈抜粋〉

（池田 淑恵）

## キャリアアップ研修II「教師力向上研修」

### ～自分の持ち味を生かしたミドルリーダーに～

キャリアアップ研修II「教師力向上研修」では、前半に信州大学の小山茂喜特任教授をお招きし、「ミドルリーダーとしての教師の在り方」をテーマに講義を行いました。後半は、その講義内容を踏まえ、「自校のグランドデザインから考えるカリキュラム・マネジメント」をテーマに、担当指導主事による演習を実施しました。

#### ～前半 講義の概要～

- ・今のミドルリーダーに求められる3つの機能  
「リーダー」「マネージャー」「メンター」
- ・教職員の環境をマネジメントするリーダー  
「柔軟性と一貫性」「挑戦・変革」
- ・実効性のある教育実践の見直し  
「長期PDCAサイクル」「短期OODAループ」



#### ～後半 演習 3つのゴール～

- ミドルリーダーの視点から考える3点
- ① カリキュラム・マネジメントを語ろう
  - ② 自校のグランドデザインを語ろう
  - ③ 自校の取組のよさや改善策の検討をしよう  
～SWOTを用いた自校の分析～

#### ◇受講者の感想より

- ・グランドデザインをこれほどじっくり読み込んだのは初めてでした。作成当時の先生方の思いを想像することで、本校が何を大切にしているのかがよく分かりました。
- ・ミドルリーダーに必要なのは「調整力」だと感じました。教育に対する様々な考えを調整していくためには、「コミュニケーション力」や「冷静さ」が欠かせないと実感しました。これらの力を身につけていきたいです。
- ・グループワークを通して、先生方の前向きな姿勢に元気をもらいました。明日から、職員室の後ろの環境を変えるために動いてみよう思います！

研修で使用した、カリキュラム・マネジメントの視点から自校を分析するための「SWOTシート」などの資料は、教育センターのホームページからダウンロードできます。来年度に向けたプロジェクト会議や研修会などに、ぜひご活用ください。

（柳澤 征之）

## Let's enjoy music歌唱 —歌う楽しさを感じる歌唱指導—

10月3日（金）通明小学校を会場に日本合唱指揮者協会副理事長で国立音楽大学講師 藤原規生先生のご指導と、ピアニストの梨本卓幹先生の伴奏で、通明小学校6学年への指導から指導法を学び、受講者も教材曲の指導を受けながら歌うことを楽しみました。



### 〈研修の内容〉

- ① 6学年児童への歌唱指導を参観（曲目 春に）
- ② 教材曲を実際に歌い、歌心を引き出す具体的な指導を自ら体験（曲目 MUSIC 一本の樹 超えてゆけ）



### 【受講者の感想】

- ・通明小6年生の歌唱への取り組みがすばらしかった。指導を受けながら大人数で一つのことに向かって壮大なスケールを作っていてすばらしかった。
- ・真剣に歌っているのだけれどなんだか楽しく、歌っているうちにどんどん引き込まれていく感じがとても参考になった。
- ・伴奏のピアノの美しさにも大変感動した。思っていたより全体の時の音量が小さく、歌が引き立っているのがすばらしかった。
- ・実際に子どもたちへの指導を見たり、自分で歌ったりすることを通して、歌唱指導の本質的なところを感じることができた。自分が歌を楽しめなかったらその楽しさを子どもたちに伝えることはできないだろうということを感じ、心から歌を楽しむことができた研修だった。

長野市教育センターで開講している音楽の講座は1つだけですが、ジャンルを変えながら受講者のスキルアップと楽しい学びの時間を目指していきます。  
(大上みどり)

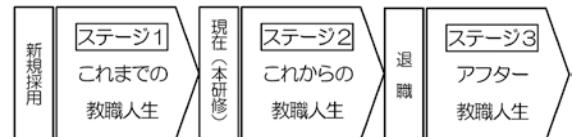
## キャリアアップ研修Ⅳ（貢献力向上研修） 学校FIKAでやる気と元気をアップ！

長野市教育センターでは、キャリアステージに応じた研修の中で、50歳代、60歳代の教職員を対象とした「キャリアアップ研修Ⅳ」を実施しています。

### 【研修講座の内容】

講義・演習「マイスターへのキャリアパス」

- ①これまでの教職人生を振り返る
- ②これからの教職人生で目指すマイスター
- ③アフター教職人生を展望する



講師 信州大学特任教授 青木 一 氏

研修の終盤には、お茶とお菓子を食べながら今後の夢を語る「学校FIKA」の時間が設けられました。リラックスした中でやる気と元気がアップする楽しい研修会となりました。



### ◇受講者の感想から

- ・最近時々考えるようになった退職後の展望、また、退職までにしておきたい事、特に「貢献する=幸福度が高まる」という考え方を教えていただき、自分の働き方について改めて見直す機会をいただきました。
- ・「今」を必死に生きてきただけの自分だったように思います。後悔はありませんが、第二ハーフの人生を「自分がこうしたいと思うこと」を中心に生きてみたいと思いました。
- ・FIKAは、どこの学校でもやってほしいです。こうして職場の中でゆとりができるといいと思いました。働き方改革は働く時間の減少だけでなくこういう取り組みが必要だと思いました。

毎年、青木一先生のキャリアアップ研修Ⅳは大変好評をいただいている。50歳代、60歳代の先生方には、前向きな気持ちになれる本講座を是非一度は受講していただきたいと思います。

(片山 洋一)

# ～教育研究委員会の授業公開から～

## 国語科研究委員会 塩崎小学校6年 公開授業から

国語科研究委員会では、「『できた』『わかった』『やってみたい』につながる、粘り強い探究過程」をテーマに実践研究に取り組んできました。

### 【授業者の自己課題】

- ・自ら見通しをもち、粘り強く取り組んでいくための課題設定と支援の追究

＜6年「世界で一つだけのパンフレットを作ろう」の授業から＞

授業者は、「読んだ人が興味をもったり、実際に買ったりしてみたくなる、楽しいインパクトのあるパンフレットを作ろう！」という単元を貫く目標を位置付け、児童が互いに意見交換しながら、自分の考えが伝わる書き表し方を追究できるように、本単元を設定しました。

### 【単元・授業の構想にあたって】

- ・推薦したいテーマごとにグループを作る。
- ・相手意識、目的意識を明確にして、パンフレットの構成や割り付けの工夫を決め出す。
- ・友から感想や助言をもらい、文章を推敲する。

前時に下書きを作成した児童たちは、これまでに自分たちで決め出してきた「パンフレットの作成のコツ」や「推敲のコツ」を振り返ったり、付箋を用いて文章の良い点や改善点を伝え合うことを確認したりして、学習の見通しをもちます。

A児は、日本語が分かる外国の方に、長野市の観光地の歴史を伝えたいという願いをもち、川中島古戦場を紹介する文章の下書きを作成しました。同じグループの友からは、「一文が短くて分かりやすい」「外国の方には内容が難しい」「ひらがなをつけた方がよい」などの感想や助言をもらいます。

その後、全体共有の場面では、「問い合わせを入れていてよい」「理由や体験が詳しく書けていてよい」など、他のグループの感想や助言が紹介されます。

そして、自分の文章を推敲する場面では、「川中島古戦場のことを知っていますか？」「実際に行ってみると、雰囲気やかっこよさが伝わってきました」と、言葉を付け加えるA児の姿がありました。

伝える相手や目的を明確にすることや、友と考えを共有しながら活動を進めていくことが、自らの活動に見通しをもち、粘り強く取り組む姿につながっていました。

### ◇参観者の感想から

互いの文章を尊重し合う「温かい雰囲気」の中で、建設的なアドバイスが自然に行われていた。このような心理的安全性が確保された環境は、子どもたちが安心して自己表現を行い、友の意見を受け入れるための基盤となっていました。

(小林 由起子)

## 道徳科研究委員会 川中島小学校6年 公開授業から

道徳科研究委員会では、「自己を見つめ、他者と関わりながら、よりよく生きようとする児童生徒の育成～考え、議論する道徳の授業づくりを通して～」をテーマに実践を積み重ねています。

### 【自己課題】

友との関わりの中で、考えを広げ、深め、自分事として考える力の育成

＜6年『ロレンゾの友だち』の授業から＞

「本当の友だち」とはどのような関係であるかを様々な視点から考え、よりよい人間関係を築くことに対する意欲を育てることをねらいとして授業を構想しました。

### 【授業の構想にあたって】

- ・対話に重点を置くために、事前に教材を読んでおく。
- ・非認知能力の高まりについて、振り返りで児童と確認する時間を設ける。

「本当の友だちってどういう人？」というテーマの基、「ロレンゾの友だち」のアンドレ、ニコライ、サバイユの考えで、自身の考えと一番近いものはどれかを選択して、同じ人や異なる人を選んだ友と自由に意見交換する時間や、全体で考えを共有する時間を設けました。

ニコライを選択したB児は、「結局それはロレンゾが苦しむことになる。ロレンゾを裏切れないけど、罪が本当なら反省してもらいたい。」と自身の考えを深めています。

ところが、授業者が「ロレンゾにとって本当の友だちって3人の中で誰？」と投げ掛けると、空気が一変します。「結局3人ともロレンゾのことを疑ってる。誰もロレンゾのことを信じていない。」と発言した児童がいたからです。悩みながらもB児は、「例え無実を信じ切れてなかったとしても、ロレンゾのことを考えて力になりたい助けたいと思っていたから3人とも友だち」と考えをまとめ、テーマに對して「いつもそばにいてくれる人、自分のことも相手のことも考えてくれる人」とよりよい人間関係に対する自己の考えを深めることができました。

終末は、学級で作成した非認知能力の行動指標に基づいて、本時どのような力を意識できたのかをそれぞれ振り返り、その高まりを自覚する時間を設けていました。

### ◇参観者の感想から

- ・資料にはない裏の事情まで想像しながら話す児童の姿から、自分事として考えることができたと感じました。
- ・事前に読むことで考える時間が保障されていた。先生も一緒に考える姿勢がよかったです。

(秋山 拓也)

## 外国語活動・外国語科研究委員会 豊野中学校2年 公開授業から

外国語活動・外国語科研究委員会では、「子どもが主体的に学ぶための授業の工夫～子どもの願いの見取りや中間指導でのフィードバックに注目して～」をテーマに、実践研究に取り組んできました。

### 【授業者が願う生徒の姿】

Unit Goalに向かって、相手に伝えようと繰り返し試行錯誤する姿

＜2年Unit Goal『石澤先生に豊野に興味をもってもらえるように、おすすめの場所を詳しく紹介しよう』(Unit 4)の授業から＞

授業者は、目指す生徒像の実現に向けて、伝える相手や目的を明確にした単元をデザインしました。

### 【単元・授業の構想にあたって】

- ・豊野に来て間もない石澤先生（英語科）に、豊野に興味をもってもらいたいという生徒の思いを反映したUnit Goalの設定
- ・石澤先生の情報更新による、生徒の発信意欲を高める単元展開
- ・メモを基に繰り返し行う言語活動

授業の冒頭では、前時の振り返りを通して、生徒それぞれが本時の願いを明確にしました。その願いを達成するために、「石澤先生だけでなく、友達ともやり取りをしたい」という声をもとに、教師は、様々な相手と自由にやり取りできる場を設定しました。

C生は、前半で複数の友達と繰り返しやり取りを行いました。中間指導では、教師が見取ったやり取りをもとに、発話者の意図をクラス全体に共有することで、「興味をもってもらう」「詳しく伝える」ことの具体的な意味を明確にしました。その上で、石澤先生に関する情報を理由や根拠として取り入れるよさを、内容面と言語面の両面から支援しました。

その後、C生は、石澤先生とのやり取りに挑戦。振り返りでは、「友達とのやり取りで自信がついた。石澤先生の好きなことを理由にして話せたので詳しく伝えられたと思うし、【石澤先生とやり取りするC生】ちゃんと伝わってよかったです。」と記述していました。

Unit Goalに向かって主体的に学ぶ生徒の姿と、生徒の学びに応じて的確な支援・指導を行う教師の姿が見られました。



### ◇参観者の感想から

教師が生徒とともに学習の進め方を考え、生徒に「委ねる」場面をつくることの大切さを学びました。生徒の学びを「見取り」、中間指導で適切に「フィードバック」することで、生徒は主体的にコミュニケーションを図るようになることがよくわかりました。生徒が「学び方」を身につくられる、そんな授業を目指したいと思います。

(柳澤 征之)

## 算数・数学科教育研究委員会 東北中学校2年 公開授業から

算数・数学科研究委員会では、「子どもの深い学びを目指した算数数学の授業づくり～他者と協働する学習を通して～」をテーマに実践研究に取り組んできました。

### 【自己課題】

他者と協働する学習を通して、深い学びを実現するための授業づくり

＜2年『一次関数の利用』の授業から＞

自己課題の解決に向け、子ども達の解決の必要感が高まる日常生活や社会の事象を題材にして、既習内容を用いて自分なりの解決方法を他者に説明する場面を設定しました。

### 【単元・授業の構想にあたって】

- ・令和7年度全国学力・学習状況調査の結果と分析から、関数の領域において、グラフや式を用いて解決方法を説明する問題に課題があることが分かったため、同調査で出題された関数の問題を扱う。
- ・友だちの考え方や気持ちを尊重し、対話を通して学びを深めている（協働・共感性）姿を目指し、話し合いや学び合いの時間や、実生活のどの部分で数学が使われているのかを考える活動を授業に位置づける。

電車の走行距離と運賃の関係をグラフに表した際の点の並びが一直線上にあると考えることで、その関係を比例とみなし、新しい駅の運賃を求める方法を考えました。

D生は個人追究のはじめに、直線のグラフを引き、 $x$ 座標が60のときの $y$ 座標を読むことで、運賃が1100円ぐらいになることを理解しました。その後、計算を用いて求めるにはどうするかを友と話し合い、表の数値を用いて1kmあたりの運賃を求めることに気付きました。友からの「1kmあたりの運賃は、変化の割合となりますね」というアドバイスを受け、 $y = 18x$ という式を立てることができました。

友との協働を通して、表、式、グラフを相互に関連付けながら、関数の理解を深めていくことができました。



### ◇参観者の感想から

Eさんは、表や数値を用いて、運賃の求め方を説明しようとしていました。最初は、「30kmの2倍が60kmになるから、走行距離が27.7kmのときの運賃を2倍すればよい」と説明していたけれど、友だちとの相談を通して、より正確な運賃を求めようとしていました。自分も多様な考え方を共有しあえる授業をつくりたいです。

(高野 勉)

## 全国教員研修プラットフォーム 『Plant』の活用について

令和3年の中央教育審議会審議まとめにおいて示された、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けて2つのことが令和5年度より制度化されました。

- ①研修受講履歴記録の作成
- ②研修受講履歴等を手がかりとした資質向上のための対話と奨励

この2つが効率的かつ効果的に実現できるようするため、文部科学省は、研修の受講や受講履歴記録の作成をオンライン上で一元的に行うことができる全国教員研修プラットフォーム『Plant』を構築しました。そして、令和6年4月からは、独立行政法人教職員支援機構(Nits)が運用管理を行っています。

長野県でも昨年度のアカウントの整備や試行を経て、本年度は本格的に利用が開始されました。それによって様々なことができるようになってきました。

### ① 自主研修の受講について

個人のアカウントでログインし、「研修検索」のタブを使って検索すると、様々な研修を調べることができます。例えば、研修名「英語」、期間を本年度の8月1日～31日で検索をしてみると以下のような研修が出てきます。

開催日程	(研修コード)研修名	パッケージ名	研修実施・運営者	指標/一般
2025/7/18(金)	会和7年度(学び続ける教師を応援する)しまだい学校教員研修「英語学習における学びの多様性と、授業での工夫を考える(理論編)」 【有料:一般的の申込み(～6/1)は終了しました。受講手続きが終わった方は受講開始までお待ちください。】 【オンライン】		島根大学	一般
2025/8/5(火)	小中英語教育会員研修会 対面		狹山市立教育センター	一般

都道府県の教育センターで開催されている対面の研修もあれば、大学で開催されているオンラインの研修もあります。受講制限があったり、有料であったりするものもありますが、夏休み期間などを使って、いつでもどこでも興味のある研修を調べ、申し込むことができるようになりました。

### ② 職務研修の受講申込について

本年度から、長野県総合教育センターの研修は、『Plant』を使って申し込む形になりました。そして、来年度より長野市教育センターの研修講座もすべて『Plant』を使って申し込むようになります。現在のように学校でまとめて申し込むのではなく、個人で

『Plant』を使って申し込みを行い、各校の校長先生に承認していただく形となります。

### ③ 研修受講履歴の閲覧と管理について

これまででは、長野県の「研修受講履歴 個人記録簿」を使って、ご自身の受講履歴を記録してきたことと思います。

しかし、本年度からは『Plant』を使って受講履歴の登録を行うこととなります。本年度受講した研修講座を下のような画面に入力することで、受講履歴が年度ごとに管理され、出力することも可能になります。また、研修講座だけでなく、教育課程研究協議会のような授業参観を通じた研修や同好会での研修も受講履歴に残していくことが可能です。

※来年度からは、長野市教育センターの研修講座も『Plant』を通じての申し込みとなるため、受講が承認されると自動で受講履歴に残る形になります。

### ④ 研修動画コンテンツ・研修情報等の登録

学校管理者のアカウントなどを使うことによって校内での研修を『Plant』上に登録することができるようになりました。

例えば、『Plant』上に校内研修を登録し、資料や動画を格納することで、好きな時間にオンデマンドとして校内研修を行うことができるようになります。

また、授業公開を通じた研修を進める際にも指導案や感想等を『Plant』上で管理し、参加者の把握や校内研修を推進することができます。

これらの機能を使って、受講履歴記録の作成を行い、自らの研修を考えていく機会をつくるといけるように市教育センターでは支援していきたいと考えております。ご不明な点等ございましたら、ぜひ、ご相談ください。

(末松 辰規)

### 編集後記

クマの出没、被害が多発しています。遭遇しないための工夫や致命的なダメージを防ぐための身の守りかたなどが報じられています。他人事と思わず、心に留めておきたいですね。